

## I 実践

## 1 研究主題 子ども一人一人に人間尊重の自覚をもたせ、認め合い、助け合う子どもの育成

## (1) 主題設定の理由

人権教育は、学校の教育活動全体を通して人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動である。

本校では、『好ましい人間関係をつくり、だれに対してもわけへだてをしない子どもを育てる。』『自ら進んで学習し、物事についての正しい見方や考え方ができる子どもを育てる。』『集団活動を通して、お互いに認め合い、仲良く助け合う子どもを育てる。』を人権教育の目標としている。

本校児童は、明るく素直であるが、時として自己中心的になったり相手を思いやる配慮に欠ける行動を起こしたりする行動が見られる。

そこで、学校の教育活動全体を通して、人間尊重の自覚をもたせ、認め合い、助け合う子どもを育成することをねらいとして本主題を設定した。

## (2) 実践内容

ア 人権が尊重される、人間関係づくり

イ 人権が尊重される、学習活動づくり

ウ 人権が尊重される、環境づくり

## 2 実践内容

## (1) 人権が尊重される、人間関係づくり

## ア Q-Uの実施

学級集団全体の状態をデータとして把握するとともに、特別に支援を必要とする児童を把握するため、2年生以上の各学級で5月・12月に実施している。5月の実施結果をもとに、今後の対策を計画・実行する。再び12月に実施し、前回と比較し、更に改善をはかっていく。

Q-Uの集計結果は、二次元の表にまとめる。その分布がどのような形になっているかという特徴から、学級を「満足型」「管理型」「なれ合い型」「荒れ始め型」「崩壊型」の5つの状態に分類するので学級全体の状況が捉えやすくなる。そのため個別に支援すべき児童に応じた対応が読みやすくなり、その後の児童の変容も把握することができる。さらに、いじめ等の問題が把握しやすくなっているので生徒指導に役立てることができる。

## イ 学校生活アンケートの実施

本校では、保護者との二者面談（11月）の前に学校生活アンケートを実施し、面談の資料として活用している。学校生活アンケートは生徒指導部が出しており、児童が各項目について記入する形式である。担当が一人一人のアンケートに目を通し、いじめ等問題がある場合はすぐ指導することができた。

## ウ 1, 2年生との交流会

本校では、1学期に2年生が中心となって縦割り交流会を実施した。1年生と2年生がペアを組み、学校探検を行った。児童は学年の分け隔てなく楽しい時間を過ごすとともに他学年の様子を知ることができたようである。

## エ 第3学年親子学習会

外部講師を招いて講話をしていただいた後、実際に耳の不自由な人のサポートの仕方を親子で体験し、聴覚に障害をもつ人への理解を深めることができた。そして多くの児童が、耳の不自由な人の苦勞に気づくことができた。



## (2) 人権が尊重される、学習活動

## ア 道徳の授業公開

7月の授業参観では、全クラス道徳の授業公開を行っている。保護者に道徳教育の必要性を理解してもらうこと、人権教育を啓発することをねらいとしたものである。

イ 第4学年福祉体験学習・いのちの教育

盲導犬（アイメイト）と共に生活をされている地域の方をゲストティーチャーとして招待し、講話をしていただいた後、実際に目の不自由な人のサポートの仕方を親子で体験することで、視覚に障害をもつ人への共感的理解が深まった。そして多くの児童が、目の不自由な人にとって町には不便な場所が多いことに気づくことができた。さらに、肢体が不自由な人についても疑似体験や車椅子体験を通して思いを知るとともに地域にある施設やバリアフリーにも関心を持つようになった。

いのちの教育は、保健師がゲストティーチャーとして来校し、赤ちゃんの誕生するまで、思春期について授業を行い、一人一人の命の大切さについて知ることができた。

ウ 第5学年スポーツ心のプロジェクト

アスリートが夢先生となり、児童に夢を持つこと、協力すること、思いやる心の大切さをレクリエーション、授業を通して伝えることをねらいとしたものである。児童達はアスリートの熱い心に触れ、感銘を受けたようであった。

エ 第6学年ネット安全教室

外部講師を招聘し、携帯電話やインターネットで起きている問題について知ると共に、正しい使い方について学習した。児童は、ネット社会の問題を知って驚いていた。

(3) 人権が尊重される、環境づくり

ア 「人権メッセージ」の取り組み

道徳の時間や朝の学活の時間等を活用して7月より全校で取り組み、各学級でとりまとめを行った。メッセージは、クラスで3点選考し、応募した。それ以外の作品に関しても、学年・学級の道徳コーナーなどに掲示することで、人権に対する意識を高めた。

イ 教職員の研修

今年度も校内研修の一つとして、特別な支援を要する児童についての研修会を実施した。外部講師を招き、発達障害について研修した結果、研修で学んだことを授業で生かすようになった。

3 成 果

(1) Q-Uの集計結果や学校生活アンケートから学級の実態を把握しやすくなり、いじめ予防に役立てることができた。児童の表情の変化を教師が意識するようになった。

(2) 道徳コーナーは、児童の考えや思いを掲示するため、休み時間に掲示物を見て友達の思いや考えを知ることができた。また、多くの児童が一人一人が様々な思いや考えを持っていることに気づいた。さらに、人権メッセージ作りを通して、自分は、家族や友達をはじめ、多くの人々に支えられていることを再認識し、感謝の気持ちを持つことができた。

(3) 様々な人権教育活動に取り組むことにより、児童が一人一人の人権を大切にしようとする態度が育ってきている。

II 今後の課題

今年度は、各学年で様々なかたちで人権教育を進めてきた。今後は校内研修を通して教職員の人権意識をさらに高め、いじめ未然防止に取り組んでいく。また、人権教育全体計画の共通理解を深め、各学年ともにより実践的な活動を推進していきたい。

III 人権コーナーの設置

人権コーナーという名称では設置していないが、「道徳コーナー」の中に人権メッセージを掲示したり、道徳「心のあいうえお」という標語を掲示したりしている。また、職員室の廊下や学年の廊下に資料や児童の作品を掲示するなど、各学年で工夫を凝らしている。

